

30



講演家のさくらりょうこはこれまで延べ  
1500回、35万人に「夢」を語ってきた。  
夢を最初に意識したのは小学校の担任の「好  
きなことは一つあつたらええねんで。それを

夢に繋げたらいつかかなうかもしけへんで」  
の一言。大阪音大では「世界一のフルート奏者」  
の夢を掲げ卒業後のフランス留学を決め  
た。その矢先に厚労省指定難病「クローリン  
病」を発病し夢が潰えた。今度は入院中に腸  
閉塞が破裂し社会から閉じこもる。横浜のク  
ローン病専門病院で皮膚瘻(ひづ)瘻着した腸管の  
孔を塞ぐ手術を行なう。「それでも  
元気にならない悔しさのエネルギー  
が湧き上がりました」。徐々にアル  
バイトを始める  
と、情報誌の「病



## 35万人に「夢」を語る

氣と闘いながら生きる」記事を見た読者が7年  
ぶりのフルート演奏の機会を与えてくれた。

35歳で結婚、49歳で離婚。「ある小学校の  
講演会で2年男児から『先生の夢は何?』と

質問され、いつも『夢を諦めなかつたらかな  
うよ』と言っている自分が夢を答えられませ  
んでした。それ以降、未来への考え方で夫婦  
の相違が浮き彫りになりました」。さくら  
は神戸の家を出た。大阪でオカリナ教室「リ  
ナ★リーナ」を軌道に乗せる。「月1回のレッ  
スンで吹けるようになります。発表会では私  
よりも年長の人達もコスプレでオカリナを樂  
しんでいます。習うだけでなく、披露の場が  
重要です。クリスマスケーキを前に『きよし  
この夜』を吹いたり、『恥ずかしい』の枠を  
外せば施設訪問や自分でライブができます」。  
オンライン教室を始めると、全国はもとより  
マレーシアからの参加もあるという。

「本を上梓したい」という夢は保険業界の

友人が京都での3000人規模の講演会の講  
師に推薦してくれたことでSBクリエイティ  
ブから『あしたを生きることば』の出版が実  
現する。講演の2カ月前、保険会社の友人が  
難病で天国に旅立つた。講演で「本当は友人  
がここにいて話を聴いてくれるはずでした」  
と語ると会場は涙に包まれる。自らの体験を  
基に「夢はかなう」と述べて話を締めると、  
3000人のスタンディングオーバーション  
で拍手も鳴り止まなかつた。

「次はグラミー賞」と笑む。「CDを出す  
夢もクラウドファンディングで呼びかけ十数  
時間で達成、『オカリナといふ笛ならチャン  
スをつかめるかも』という閃きがありました。  
グラミー賞受賞者の喜多郎さんと偶然話す機  
会があり、『想いは必ずかなう』と言われま  
した」。大阪で応援団ができ、アメリカ上陸  
も自論む。あの小2男児の問い合わせが基で、  
でつかい夢が現実味を帯びる。(文中敬称略)